

『独居・高齢者夫婦の支援強化とセルフネグレクトの予防に関する研修』に参加して

報告者：高陵・下関地域包括支援センター 竹中 葉子

令和8年3月3日、花園大学社会福祉学部 福富昌城先生の『独居・高齢者夫婦の支援強化とセルフネグレクトの予防に関する研修』を受講しました。『セルフネグレクトの実際事例を用い課題解決手法を学ぶ』と題し、セルフネグレクト状態の方への支援の考え方についての講義の後に、事例について、どのように見立て、どのような手立てが考えられるかグループディスカッションを行いました。



講師 福富昌城先生



まずセルフネグレクトとは、社会の中でSOSを発信できず、支援されないという観点からは、社会がネグレクトしていると考えられると説明を受け、社会、支援者側の問題でもあると認識しました。日々の現場では、不衛生な住環境や健康状態の悪化など、危険性が高い状況に直面すると、早急に改善しなければならないという思いが先立つことがあります。しかし研修を通じて、背景には孤立や経済的困窮、心身の不調、喪失体験など複合的な要因があることを学び、表面的な状況だけで判断しない姿勢が重要であると再認識しました。支援が難しい方こそ、当たり前の支援をより丁寧に行う必要があると先生がお話されたことも印象に残りました。今後は、リスク評価を丁寧に行いながらも、本人の思いに寄り添い、小さな合意形成を積み重ねる関わりを実践していきたいと思います。

また、本人に支援拒否の意思がある場合においても、その背景にある思いを丁寧に汲み取るためには、実際に本人が語りそうな言葉を用いて仮説を立てることが利用者理解につながることを教えて頂きました。

今後は、危険性の評価と同時に、本人の強みやこれまでの生活歴にも目を向け、関係機関と連携しながら粘り強く関わっていききたいと思います。また、孤立を防ぐための地域づくりの視点も大切にしていきたいと感じました。

今回の研修で得た学びを、日々の支援の実践に活かしていきたいと思います。

